



TOSTEM

リビング建材 ウッディーライン

室内ドア プライベート仕様

取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

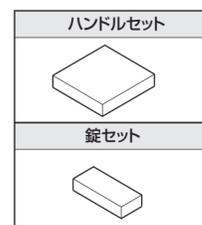
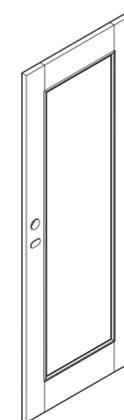
- 本体を吊込んだ後、枠側上丁番のレバーが上がっていることを確認してください。レバーが上端まで上がっていないと、本体が脱落するおそれがあります。
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。

■取付け上のお願い

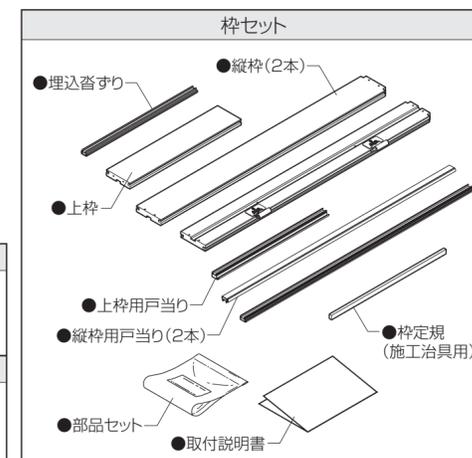
- 本製品は一般住宅用の居室用防音ドアです。カラオケボックスなどの業務用、玄関などの室外、浴室などへのご使用はおやめください。
 - 必ず、同梱の埋込沓すりを使用してください。薄沓すりの使用はできません。(縦枠長さがありません。)又、沓すりなし納めにされると防音性能が低下しますのでおすすめできません。
 - 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。調整機構付丁番・ストライクの可動範囲を超える枠の倒れ、ゆがみ、ねじれなどが発生した場合、開閉不具合の発生および防音性能の低下の原因となります。
 - 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
 - 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間にはすき間をつくって納めてください。
 - 縦枠と柱、間柱とのすき間は枠固定金具を調整して柱にあてて内装ボードを必ず縦枠に突きあててください。突きあてができない場合はかい木を入れてください。
 - 上枠とまぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
 - かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
 - 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。止むを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
 - 丁番は指定のねじで締め付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
 - 防音性能を維持するため、建築壁内の防音処理およびドア枠と下地材のすき間への充填材(防音パテ・コーキング材・遮音シートなど：現場手配)の使用をおすすめします。
 - 本製品は気密性を高めているため、ドアにて第3種換気に適合するすき間が確保できません。計画換気については第1種換気での取付けをおすすめします。
 - ドアストッパーを壁に取付ける場合は、補強材が入っていることを確認してください。
 - 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ(ガムテープ、養生テープなど)を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
- ※長年にわたる扉の立て置き保管はせずに、寝かせた状態での保管としてください。扉のソリ・ねじれなどの原因となります。一時立て置き保管をする際は、下部気密材保護のため、ドア本体下部の下部ピースは取付けておいてください。
- 本製品のみでの使用では、防音効果はありません。必ず建築壁部(天井・壁床・窓・換気空調など)は防音性能を有する構成、構造としてください。

■部品・部材の明細

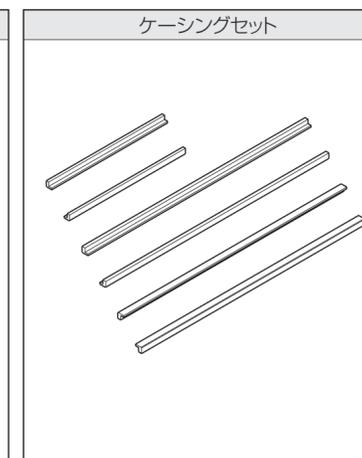
●ドア本体



●枠セット



●ケーシングセット



■建付け調整(丁番による調整)

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
 ※電動ドライバーは、使用しないでください。
 ねじ頭が壊れるおそれがあります。

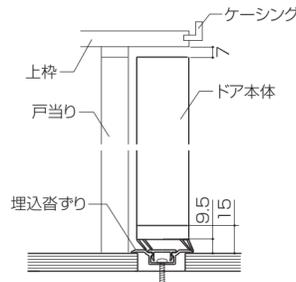


上下の調整

●扉側下丁番で調整します。
 ●調整幅は、上(4mm)、下(5mm)です。

標準設定位置

●本体を閉めたとき、下の納まりとなるように上下の調整をしてください。



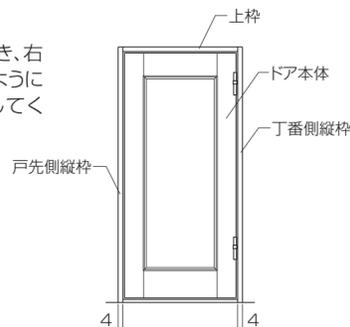
※下部気密材の埋込沓すりへの当り方を確認して必要なら調整してください

左右の調整

●枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
 ●調整幅は、吊元側(1.5mm)、開き側(2.5mm)です。

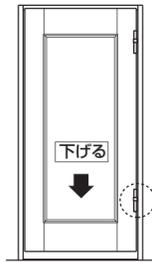
標準設定位置

●本体を閉めたとき、右の納まりとなるように左右の調整をしてください



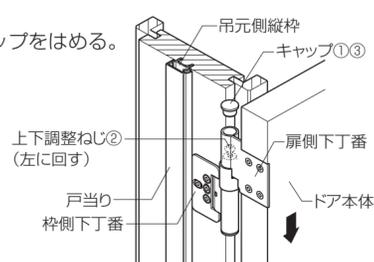
不具合例

●ドアの上部が枠に当たる
 ●音が下部から漏れている



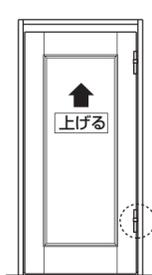
調整方法

- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。



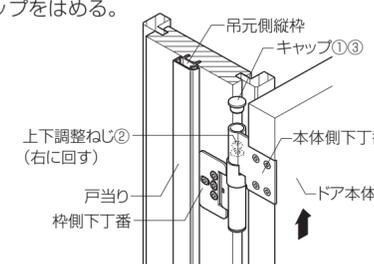
不具合例

●ドアの開閉が重い



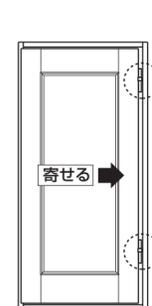
調整方法

- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。



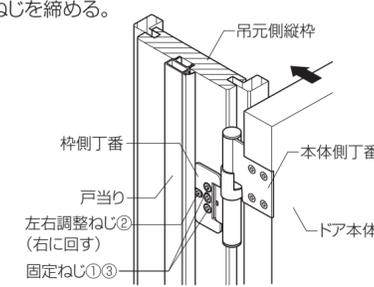
不具合例

●ドアの開き側が枠に当たる



調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



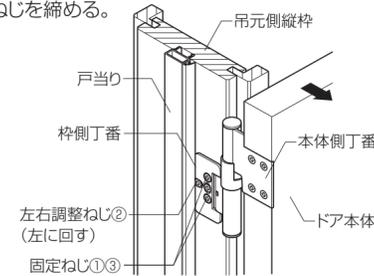
不具合例

●ドアの開き側のすき間が大きすぎる



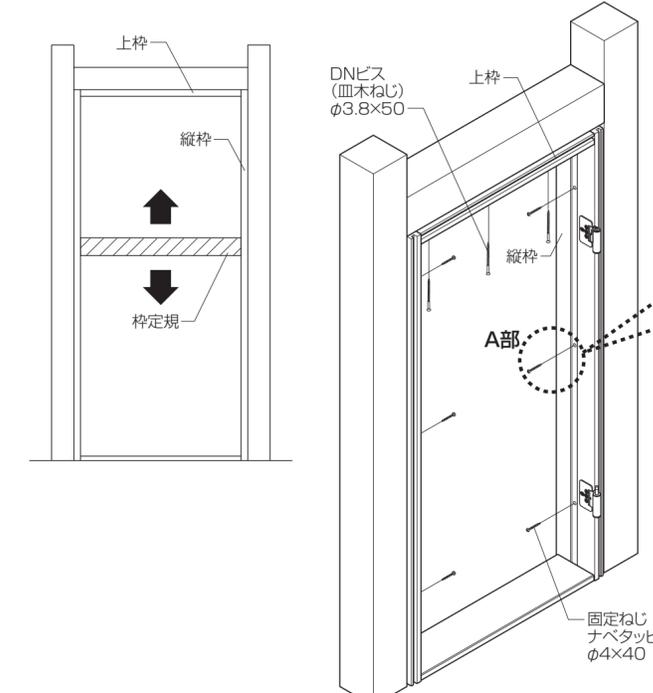
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



3 枠の取付け

- ①縦枠に取付られている枠固定金具(縦枠に3個取付け)の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に出してください。
- ②枠の垂直を確認してください。
- ③固定ねじ(なべタッピンねじφ4×40)を枠固定金具の長穴中央部分より締め付けてください。
- ④枠の奥行方向の倒れを確認して下さい。倒れている場合は、固定ねじをゆるめ、枠を動かします。(奥行方向の調整幅は6mmです。)調整後、ねじを固定してください。
- ⑤枠定規をあてて、開口寸法(W方向)を確認してください。開口寸法が大きい場合は、反時計回りに回し、小さい場合は、反時計回りに回して枠を調整してください。(左右の調整範囲は片側で10mmです。)
- ⑥再度、枠の垂直を確認してください。
- ⑦上枠は、かい木を入れてDNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。
 ※縦枠の固定箇所を増やしたい場合は、予備の上枠取付け用DNビス(皿木ねじφ3.8×50)で固定してください。



■A部詳細図

最大出幅10mm

●お願い
 ※必ず水平・垂直の建付け確認をしてください。タイコ、ツツミ、蛇行、傾き、倒れ、ねじれなどがなく確認してください。防音性能の低下や開閉不具合の原因となります。

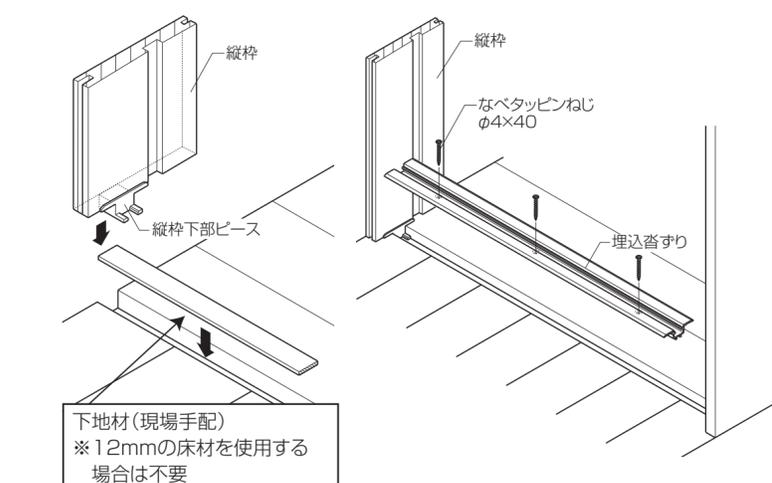
タイコ ツツミ 蛇行 傾き 前後上枠の傾き

前後の倒れ ねじれ 枠内外側の内法寸法の違い

●お願い
 ※枠固定金具の調整には、電動ドライバーを使用しないでください。
 ※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて取付けてください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。

4 埋込沓すりの取付け

- ①(15mmの床材を使用する場合のみ)下地調整材(3mm厚:現場手配)を床の開口部に取付けてください。
- ②縦枠下部ピースの底に埋込沓すりをしっかりとめ込んでからねじ止めしてください。
 埋込沓すりの浮き上がりや扉開閉不具合の原因となります。
- ③溝フタをはめ込みます。



下地材(現場手配)
 ※12mmの床材を使用する場合は不要

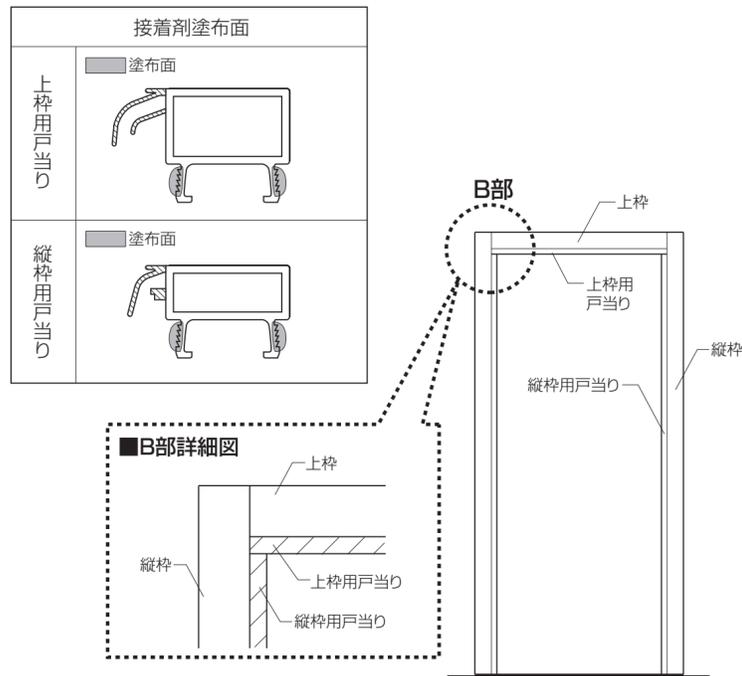
■埋込沓すり

●お願い
 ※埋込沓すりを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。埋込沓すりが変形し溝フタが閉まらなかったり埋込沓すりや床材のすき間などの原因となります。

5 戸当りの取付け

- 現場で縦枠用戸当りの寸法を合わせて切断してください。
 - 戸当りの足の外側（リップのある面）に接着剤（現場手配）をつけ、固定してください（塗布面は右図参照）。接着剤（現場手配）がはみ出した場合は必ずふきとってください。
- ※上枠用→縦枠用の順に取付けてください。

●お願い
※ハンマーなどで直接たたき込まないでください。

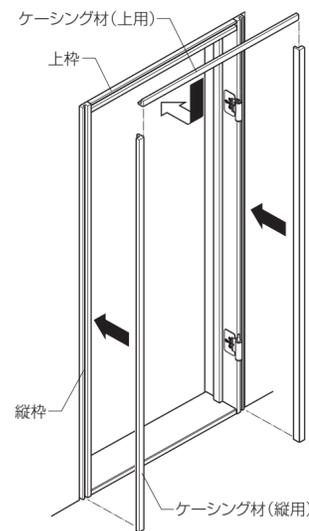


6 下地材と枠のすき間の充てん

- 下地材と枠のすき間は、音漏れにより、防音性能に影響が出る場合がありますので、すき間への充てん材（防音パテ、コーキング、遮音シートなど：現場手配）の使用をおすすめします。

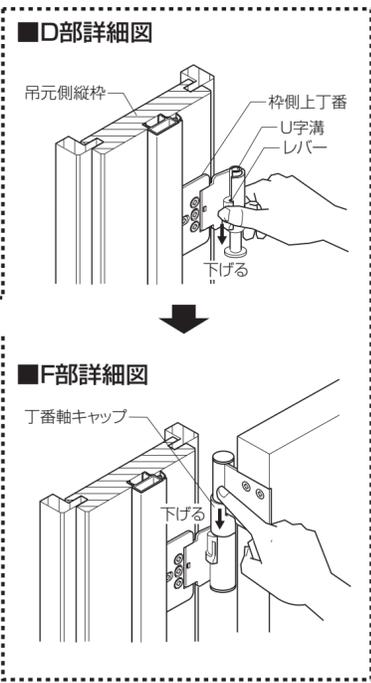
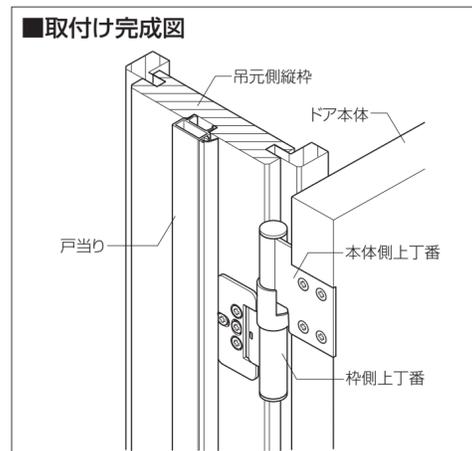
7 ケーシング材の取付け

- ※壁材・床材を仕上げてからケーシング材を取付けてください。
- 別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。（上ケーシングは枠に合わせてあらかじめカットしてあります。）
 - 枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
 - ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤（現場手配）を塗布し、ケーシング材を固定します。
- ※仮止めする場合は、専用かかし釘をご使用ください。



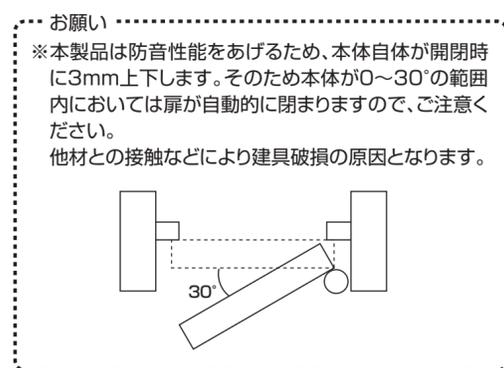
8 ドア本体の取付け

- ドア本体に本体側丁番を皿タッピンねじφ4×20（枠側丁番にテープ止め）で取付けます（C・C'部）。※ドア本体は左右兼用です。取付けの際は、ドア本体の上下を確認してください。
- 枠側上丁番のレバーを止まるまで下げます。（D部）※枠側上丁番の下部から軸が出てきます。※レバーが動かなくなるまでしっかりと下げてください。
- 本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。（E部）
- 本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。※扉側丁番の軸が枠側丁番に入ると自動でレバーが上がります。※「カチャリ」とレバーが上がると、とび出していた軸が丁番に入り込んだことを確認してください。
- 丁番軸キャップを手で下げてください。（F部）※パチンとはまるまで確実に下げてください。
- 本体下部ピースを取外してから、扉を閉めてください。



▲注意

- 本体を吊込んだ後、枠側上丁番のレバーが上がっていることを確認してください。レバーが上端まで上がっていないと、本体が脱落するおそれがあります。
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。



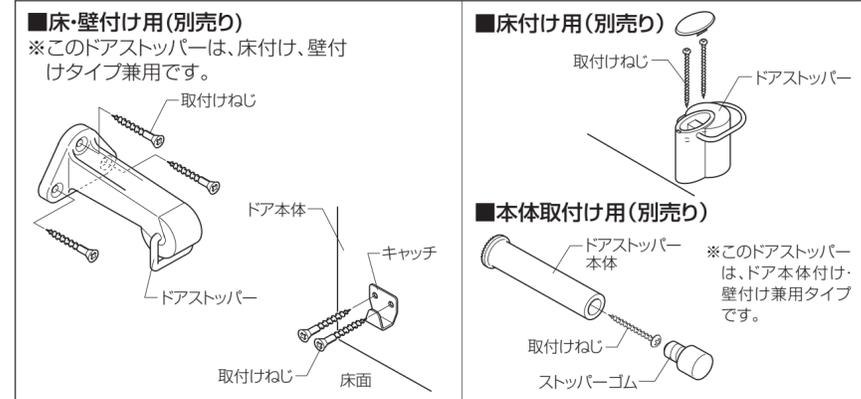
●お願い

※本体を保管する際は下記の状況にあたる場所には置かないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・昼夜などで温度差の激しい場所
- ・湿気の多い場所 本体のソリ・ねじれなどの原因になります。

※長期にわたる本体の立て置き保管はせずに寝かせた状態での保管としてください。本体のソリ・ねじれなどの原因となります。一時立て置き保管をする際は、下部気密材保護のため、ドア本体下部の下部ピースは取付けておいてください。

9 ドアストッパーの取付け



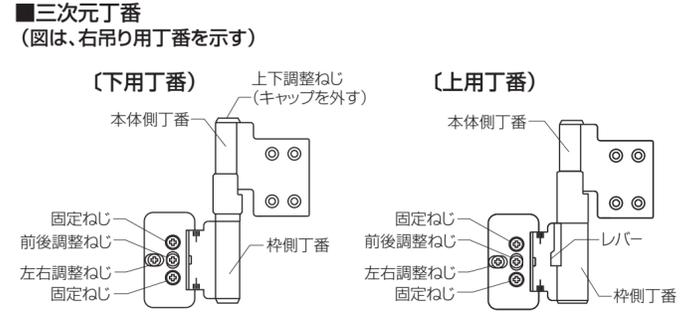
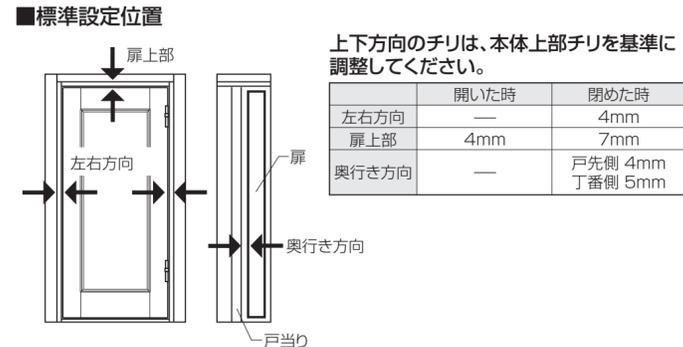
■ 本体取付け用ドアストッパーおよび、キャッチの取付け範囲

※右図の斜線範囲内にドアストッパー本体又は、キャッチを取付けてください。

※壁付け・床付け戸当たりは、キャッチの位置に合わせ、壁又は床に取付けてください。

※ドアストッパー取付け時には、φ1.5の下穴をあけて手回しで固定してください。電動ドライバーなどの電動工具で締め付けると空回りすることがあります。

建付け調整



建付け調整（ストライクによる調整）

●ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

